

高槻市史

第二卷本  
編Ⅱ



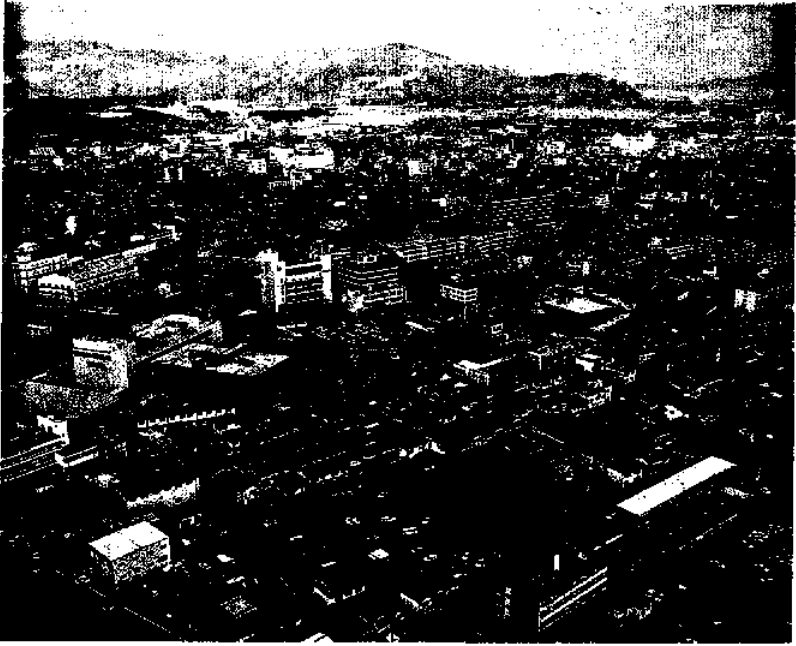
永井直清画像(京都・悲田院所藏)



肉筆彩色西園街道名所繪図(小方家所藏)



日本農民組合北摂連合高槻町支部旗(中川種次郎氏提供)



市域の現況(航空写真・1983年12月27日撮影)

自注因地貌凡能區此  
原望小亭能候之遠西  
方与东土始知步之  
如東

卷四 陸元

糖子林

卷四 陸元

望場當日降凡能？急得  
始生為而怪回海五湖  
洪高岸翻光探入著  
真

卷四 陸元





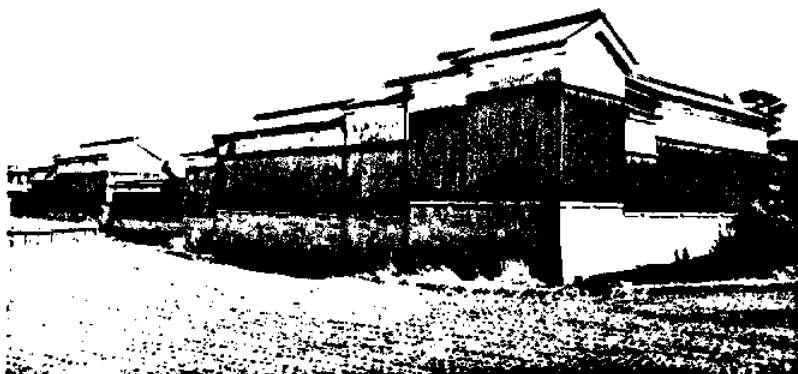
古曾部焼・蟹耳付辰砂大花瓶(教育委員会所蔵)







富田の酒倉



廣崎の段倉



櫻田村役場(旧市役所櫻田支所)

## 凡 例

- 一、本書は『高槻市史』のうち第二巻本編Ⅱとして編集したものである。
- 一、本巻の時代区分は「近世・近代・現代」とし、一九三一（昭和六）年以後、四五（昭和二〇）年太平洋戦争終戦までを「戦時体制下」とまとめ、現代への過渡期とした。なお、現代の記述は編集の都合上、一九七八（昭和五三）年までで打ち切った。
- 一、年代表記については、太陰暦時代については和暦（日本年号）を主にし、西暦をカッコで括り、太陽暦時代（明治六年以降）は西暦を主にし、和暦をカッコに入れた。
- 一、数詞は原則として洋式漢数字表記とし、万位に「万」を入れた。ただし、千位で終る数は、「三万六千」などと表した場合もある。なお、太陰暦時代の年記・日付だけは和式表記とした。
- 一、かなづかいは、引用史料・引用文献以外は現代かなづかいで統一した。
- 一、漢字はできうる限り常用漢字を用いたが、引用史料・人名・地名・歴史的用語等には止むをえず旧漢字を用いたものもある。なお、難読と思われるものには初出にかぎりフリカナをつけた。
- 一、前近代の引用史料はできるかぎり読み下し文にし、あるいは口語訳にして平易にした。

- 一、引用史料・引用文献の出典は、文末に「( )」で簡略に割注した。既刊の史料編よりの出典は「〔近世〕」(第四卷〔近世編Ⅰ第一章一号文書〕)、〔二二三〕」(第四卷〔近世編Ⅱ二二三号文書〕)、〔近現代〕」(第五卷近・現代編五二号文書)などとし、「通し番号を採って小分類は省略した。
- 一、写真・図版・表組は、それぞれ写・図・表と略記して番号をつけ、巻末に目次をつけた。写真の出典は簡略化し、目次末尾に詳しい文献名を示した。所在表記などは目次では省略した。なお、本編で使用の昭和二三年撮影の空中写真はすべて建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の一万分の一空中写真を複製したものである。(承認番号)昭五一総復第一五四一号。
- 一、度量衡のうち、歴史的度量衡については、とくに現法との比定を行わなかった。しかし、実測量と関連する場合は、メートル法で表現、または注記した。貨幣量もことさら比定しなかった。
- 一、文中の歴史的人名は敬称を省き、その他の人名については、担当著者の記述に従って統一しなかった。
- 一、補注は、本文中に\*印で示し、小見出しの区切りごとに挿入した。
- 一、付図として「高槻市の近世歴史地図」(多色刷)を添付した。
- 一、表紙本扉・背表紙・函題箋等の題字は、前市長のものである。